

薬物療法_抗精神病薬_1

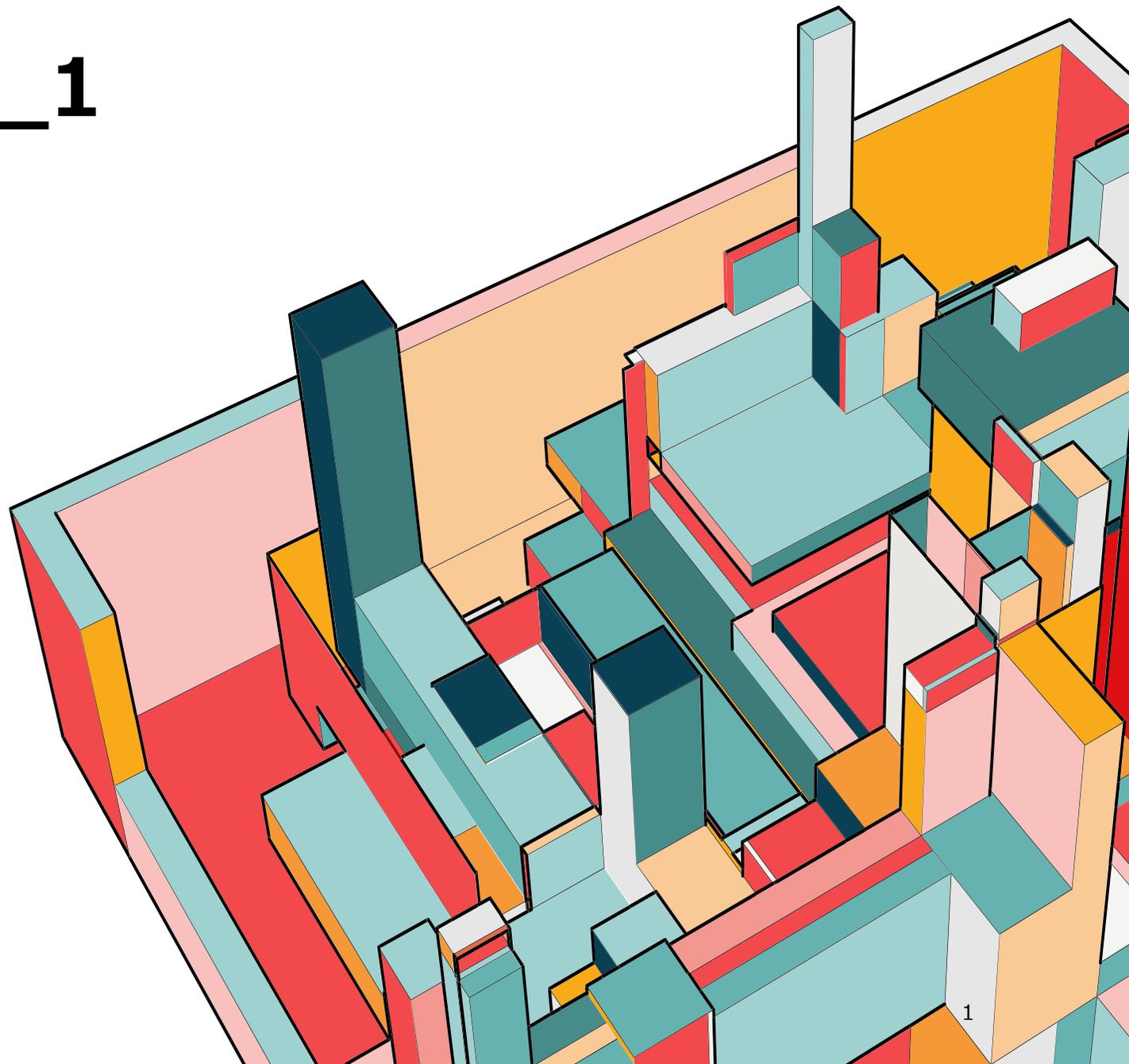
薬物療法（一つの種類の向精神薬は様々な種類の病気に使われる）

①抗精神病薬 ≠向精神薬

適応：統合失調症、疾患によらず幻覚妄想状態、精神運動興奮、強い不安（鎮静作用）、うつ病、躁うつの気分安定目的

作用機序：受容体の遮断によるドーパミン（神経伝達物質）拮抗作用が中心（ドーパミン仮説）※セロトニン、ヒスタミン、ノルアドレナリン等多くの受容体に作用するものもあります。

初めての抗精神病薬：クロルプロマジン（歴史的に重要）



薬物療法_抗精神病薬_2

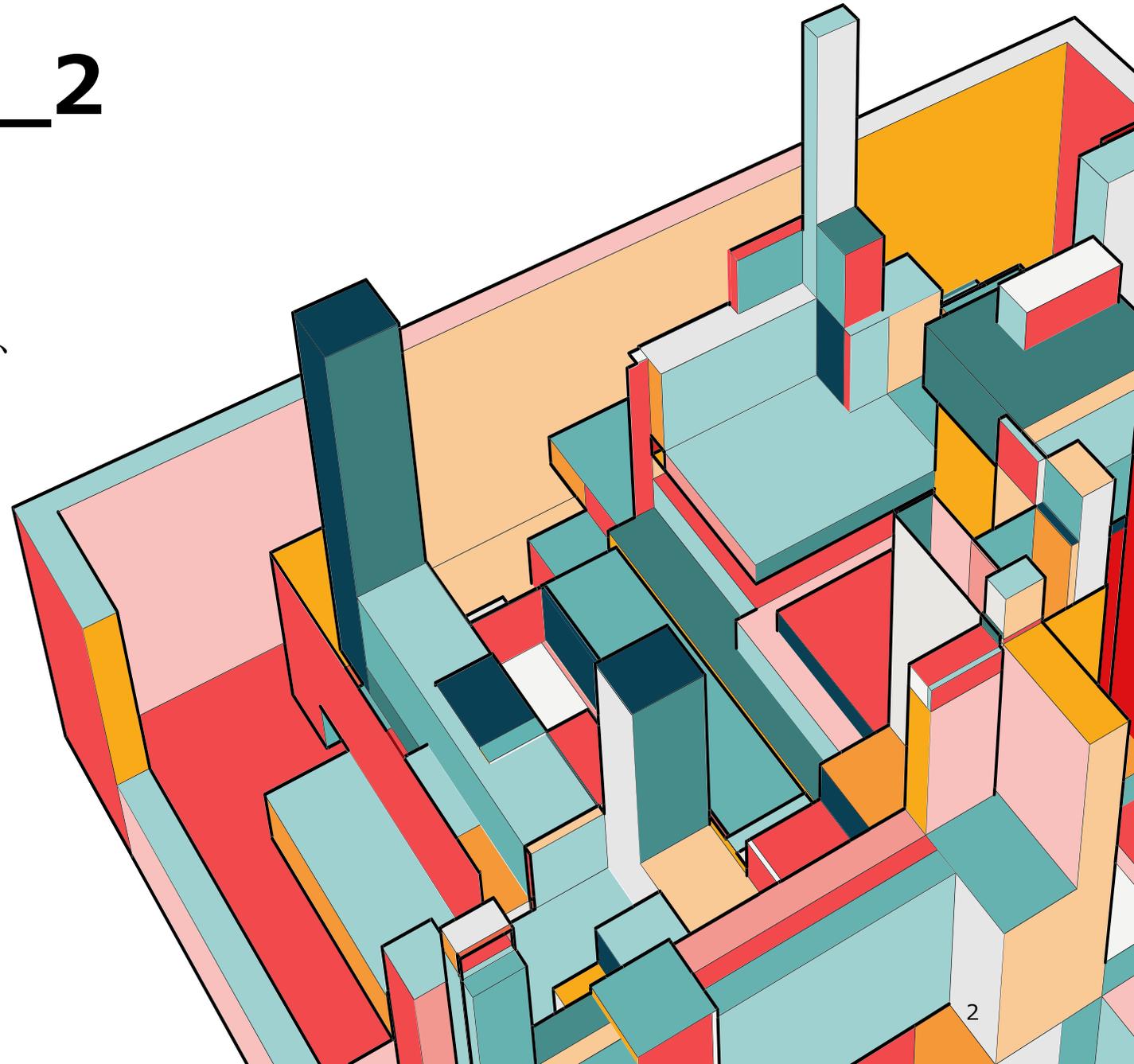
副作用

錐体外路症状⇔錐体路（パーキンソン症状）：パーキンソン症候群（姿勢反射障害、小刻み歩行、歯車様固縮、仮面様顔貌）、アカシジア（静坐不能）、遅発性ジスキネジア（不随意運動、口腔ジスキネジア）

消化器症状：便秘、イレウス（腸閉塞）

内分泌異常：月経異常、乳汁分泌、肥満、糖尿病（禁忌薬が存在）

悪性症候群：高熱、固縮、振戦、発汗、精神症状の悪化、筋逸脱酵素（CK）の上昇



薬物療法_抗精神病薬_3

種類

*統合失調症の精神症状：陽性症状（幻覚、妄想）と陰性症状（意欲低下、自閉）に大きく分かれる

・定型抗精神病薬：陽性症状への効果が中心で、錐体外路症状が出やすい。

例：ハロペリドール、クロルプロマジンなど

・非定型抗精神病薬：陰性症状への効果が比較的高く、錐体外路症状が少ない。

例：リスペリドン、アリピプラゾールなど

